

令和2年度を振り返って（県協会中学生委員会より）

専門委員長 越谷市立栄進中学校

星野真也

1. はじめに

令和2年度の行事も無事に終了することができました。これもひとえに埼玉県協会や中体連専門部の関係者の方のご指導とご協力の賜りと深く感謝申し上げます。特に諸大会開催につきましては多くの方々の配慮を頂き、円滑な運営のもと感動ある大会にすることができました。心より感謝申し上げます。

2. 今年度を振り返って

令和2年度を迎えようとしているさなか、新型コロナウイルスの影響により、全国規模で休校が相次ぎ部活動も停止になるなど、今までにない状況となりました。多くの学校は新チームの強化に励んでいた矢先の出来事だったため、今後どのようになるのか分からないまま新年度となりました。新年度が明けても状況は変わらず、4月7日に緊急事態宣言が発表されてしまいました。自粛生活が続き世間では多くの行事が相次いで中止となりました。さらに、全国的な影響により全国中学校大会と関東中学校大会そして埼玉県学校総合体育大会が中止となりました。各自治体ではせめて地区大会だけでも代替大会を開催しようと奮闘した結果、多くの地区で代替大会を開催し、3年生の集大成を迎えることができました。

さて本年度は、昨年度の新人大会で三郷市立北中学校の男子が上級生と下級生の混成チームながら、息の合ったDFからの速攻を持ち味に力を伸ばし、その後の春の全国中学生ハンドボール選抜大会代表決定戦で優勝しました。また、女子では川口市立戸塚西中学校が昨年度の学校総合体育大会で中心メンバーだった選手が残っていた関係もあり、巧みなOF技術と戦略で新人大会と代表決定戦を制しました。女子は顧問の田中和久先生が3年計画でチームを作り上げ、多くの選手が埼玉県選抜で活躍しJOC全国大会準優勝の主力メンバーとなり、春の全国大会で上位進出を狙いチームとしての経験を積ませ、全国中学校大会では優勝を目指していました。しかし、春の全国大会が新型コロナウイルスの影響により中止になってしまい、選手や顧問のモチベーションを下げることになってしまいました。また、再出発を誓った全国中学校大会も失ってしまうという、悔やみきれない思いで引退となってしまいました。

3. 新人体育大会と今後の展望

新人大会の男子では、残念ながら川口市の棄権が決定してしまいました。近年の、ハンドボール競技は川口市が中心となり大会を盛り上げていたため、本来とは異なる寂しい大会となってしまいました。

大会は無観客試合となり開催され、競技日程も感染拡大対策を考慮した形式となり、通常とは異なることが多くなり、先生方や生徒の負担が大きくなる大会でした。そのような状況下、男子決勝では伝統校のさいたま市立土合中学校と初の決勝進出となった三郷市立早稲田中学校が対戦しました。早稲田中は能力の高いセンタープレーヤーを軸に勢いのある攻撃力、土合中はDFからの速攻を生かした全員ハンドボールといったチームワークを主としたチームで、僅差の攻防を繰り広げました。土合中が8年ぶり2回目の優勝となりましたが、早稲田中も夏に向けてDF力を上げれば十分に関東出場を目指せるチームとして存在感を表す戦いでした。女子は、初優勝を目指すさいたま市立美園中学校と吉川市立南中学校が対戦しました。美園中は小学校からの経験者を揃え、巧みな足さばきとボールコントロールで相手を翻弄し、吉川南中は全員一丸となり徹底された戦術で接戦を繰り広げました。しかし、1年生を主力とした吉川南中が力強さで負けてしまい、徐々に点差が広がり美園中が初の栄冠を手に入れました。

4. 2021年度の事業取り組み

今年度、大会運営、審判、指導と学ぶ気持ちが高い新たな指導者が増える中、コロナ禍で大変な思いをしましたが、困難が結束を強くし埼玉全中に繋がる力をつけることができました。

また、埼玉全中を目指し、埼玉強化対策5か年計画が来年度で5年目となります。引き続きハンドボール王国埼玉を築き上げるため、選手だけではなく、運営の円滑化を含めた強化対策の実施を図ります。

また、埼玉全中での上位進出を目指して行ってきた5か年計画の最終年度となります。この計画が最後にならず5年間で築き上げた土台をもとに今後の強化を図っていきたいと思います。そのため、コロナ禍でも、できない選択ではなく、できることを追求し可能性を信じ活動を進めていきたいと思います。

○5カ年計画（2021年度）の主な事業内容と経過

- ・トレセン推進（強化活動と普及活動の分担化）
※月1回、ハンドボール教室を実施
- ・選抜選考および練習計画の早期実施
※4月より実施、トレセン/選考会資料作成
- ・審判員上級者育成（A・B級の取得）
※3名A級審査、関東・全国大会審判派遣
- ・埼玉全中年度生徒の強化対策と強化校の検討
※中体連強化部長を中心に検討中
- ・諸大会における運営活動費の予算等の見直し
※強化対策費や各大会予算調整案の作成
- ・日本リーグ役員や各大会審判派遣の計画化
※年間派遣計画を作成し平等に分担化を図る
- ・競技役員の傷害保険加入の推進
本年度は全員加入
- ・富士見総合体育館にて全中リハーサル大会実施
2020年度、県大会最終日に実施

5. さいたま CITYCUP 中学生交流大会の報告

本年度はJOC全国大会埼玉開催3年目となり、有終の美を飾るためにもチームと運営で日本一を目指して新年度を迎えましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、8月に中止の判断が下されました。しかし、今まで構築してきた地元の強い思いや大会実現を願う各都道府県のチームの思いを受けて、埼玉県ハンドボール協会や日本協会中学生専門委員会の助言を頂きながら、さいたま市ハンドボール連盟主催のもと大会実行委員会を立ち上げ、JOC全国大会の代替大会を開催することになりました。

9月になり感染拡大が沈静化する中、全都道府県に参加有無のアンケート調査をした結果、男女合わせて31チームの参加が見込まれました。しかし、参加申込が始まる11月になると感染者数が徐々に増え、締め切り時には男女26チームの参加となりました。また、感染拡大が増加傾向になると11月下旬から辞退チームが出始め、最終的（大会3日前）には、男子9チーム（埼玉県、さいたま、長野県、神奈川県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府）と女子7チーム（埼玉県、さいたま、神奈川県、愛知県、三重県、京都府、大阪府）となってしまいました。

参加チームができるだけ多くの経験や思い出を作るため、交流戦1日を含む3日間開催としました。しかし、感染拡大対策に追われたり競技日程や組み合わせが大会3日前まで流動的になったりするなど、困難を極める日々を過ごしてきました。このような状況の中でも、中体連の先生方を中心に地区大会や県大会では、さいたま CITYCUP 大会や全中を見据えた運営を検討するなど、多くの主担当会議を重ね最高のおもてなしができるように試行錯誤してきました。その結果、代表者会議ではハンドボール界初となるWEB代表者会議、感染対策を考慮した競技運営方法、記録係の入場許可など、新しい様式を生み出すことができました。さらに、ハンドボールの日本選手権やバスケットボールのウィンターカップ、サッカーやバレーボールの選手権など、カテゴリーは異なるがさまざまな分野で開催が実現するなど、私たちだけが苦しんでいるのではない、多くのスポーツ選手の夢と希望が込められていると信じ当日を迎えることができました。

競技初日、首都圏を中心に感染拡大が収まらない状況でしたが、受付で徹底した健康チェック、選手やチーム役員、大会関係者への感染対策グッズの配付など、万全な対策でスタートを切ることができました。そして競技が始まると、選手は笑顔で試合を楽しんでいました。しかし、本大会になると選手や役員の表情は交流戦とは異なり真剣な表情となり、どの試合も熱戦が繰り広げられました。最終的には、男女大阪府が優勝しました。埼玉県は男子準優勝、女子3位という結果となりましたが、結果に関係なくみんな晴れ晴れとした表情で終わることができたので、大会の成功を確信することができました。

競技最終日を迎え、皆様のご協力により無事に大会を終えることができました。期間中には日本ハンドボール協会田口専務理事や中学生専門委員会尾石育成委員長などが激励に来て頂き感謝しております。本日までを振り返ると、大会が近づくにつれコロナ感染が拡大していき開催を不安視する声が多くなってきました。しかし、どのように進めれば実現できるかを考え、最後まで諦めず信念を貫き通した結果、開催が実現し、参加者全員が満足して今大会を終え

ることができたと感じております。

埼玉県内では今大会に至るまで、埼玉県ハンドボール協会中野副会長や野平理事長、宮澤審判長、岩本強化委員長が、常に励ましの声をかけてくれました。さらに、日本ハンドボール協会三輪常務理事や日本中体連佐藤競技部長からも多くの助言を頂きました。また県外では、コロナ禍の事情で参加することができなかった方々からも前向きな意見を頂いたり参加できる方の協力を仰いで頂いたり、見えないところで支えて頂きました。そして、自分のチームや校務、休暇を後回しにして運営に協力してくれた埼玉県協会の仲間や茨城県審判団がいました。参加チームも二転三転する運営にも関わらず協力や理解をしてくれました。大会実現を信じて待ち望む保護者や選手がいました。ハンドボールを愛する人々の力により開催することができたことに感謝しております。

最後に、実行委員は目まぐるしく変わる状況の中、気が狂うほど苦しみました。多くの思いが膨れ上がってしまった結果、このような長文になってしまい申し訳ございません。今後も埼玉県が一丸となり、埼玉全中では最高のおもてなしを準備したいと思えます。以上を持ちまして、感謝の意とご挨拶に変えさせていただきます。

《実行委員会に宛てられたメールを一部紹介》

・埼玉県協会副会長、中野様より

コロナ禍、本大会が中止になり、全国の選手、役員、関係者にとっては、折角の、出場機会を失い、その気持ちを思うと痛恨の痛みです。代替え大会の準備、運営では、星野委員長はじめ関係者の方々には、親身より御礼を申し上げます。コロナさなか遠く大阪初め、少ないとはいえ7府県よりの参加を得大会が終了できたことは、子供たちにとっても一生の思い出、経験になったことと思います。また、連日にわたり、ご多忙の中、大会の報告いただきありがとうございます。次年度、全国中学生大会に向け、さらに、ご研鑽いただきたくご期待申し上げます。大会を後押し頂いた関係者はもとより、さいたま市 CC 実行委員会の関係者のご理解に感謝するところです。大会を終了し、体調を整え今後に向けご活躍されることを願っております。

・大阪府女子選抜、神並様より

大変お世話になりました。とても幸せな時間でした。コロナ禍の中、このような時間を過ごすことができたのは、大会に関わったすべての方々のお陰だと本当に感謝しております。子供たちの弾けた笑顔…私たちにとっては印象に残る素晴らしい大会だったと心から思います。大会準備、大会本番…大会が終わってもたくさんの作業が残っていると思います。体調にお気を付けください。皆様よろしくお伝えください。

・北海道ブロック長、藤澤様より

大会成績をお送りいただきありがとうございます。また、大会運営本当にお疲れ様でした。北海道はご迷惑ばかりをおかけして、何もお手伝いもできず、大変申し訳なく思っております。この3年間のご努力が埼玉全中で結実しますよう、心から祈っております。

・滋賀県男子選抜、田中様より

昨日は挨拶をすることなく早々に帰ってしまい申し訳ありませんでした。無事に予定通り(10時30分)ぐらいには滋賀に到着することができました。大会については2年前に参加させて頂いたJOC本大会と同じ雰囲気ですべて頂き、子どもも役員も大満足でした。大会運営するだけでも大変な中、Zoom会議での失礼な発言、競技日程の変更検討など大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。こんな状況下でも大会を開催して頂いた、星野先生をはじめ、埼玉県協会の方々、茨城県審判団、には感謝いがい何もありません。子ども・役員・保護者にとって最高の大会でした。本当にありがとうございます。

・三重県女子選抜、栗本様より

埼玉県協会の皆さんが、星野先生の熱い思いに応え一丸となって運営されている姿を見て感動するとともに全国のハンドボーラーにこのような機会を与えていただいたことへの感謝しかありません。お正月に三重県で開催している四日市ドームカップは中止としてしまいましたが、さいたまCUPでの感染症対策を参考に、ぜひ来年は開催したいと考えています。賛否両論の中、先生方が矢面

になられて大変な思いをされたと思うと胸が痛いですが、三重県選抜の生徒、保護者、スタッフ全員が先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。本当に貴重な経験を積ませていただきありがとうございました。夏の中体連まで、また頑張ってください。夏の中体連まで、また頑張ってください。年々心と体を休ませてください。

・埼玉県選抜女子、田中様

優勝はできませんでしたが、素晴らしい大会を実現してくれて有り難うございます。とても感謝しています。子どもたちも保護者も感謝で一杯です。日本一の運営のもと、試合が埼玉県でできたことを誇りに思います。太利先生がバラバラだった専門部にチームワークというものを作り、石塚先生や細津先生で少しずつ積み上げてきて、今大会で花を咲かせた感じですね。まだ、来年の全中があります。これからもよろしくお祈りします。

6. 各大会の報告

【埼玉県学校総合・関東および全国中学校大会】

コロナウィルス感染拡大のため中止

【埼玉県中学校新人体育大会】

男子の部 準決勝 早稲田○21-14 田島
土合○15-12 吉川東
決勝 土合○17-15 早稲田
最終順位 優勝：さいたま市立土合中学校
準優勝：三郷市立早稲田中学校
3位：吉川市立東中学校
：さいたま市立田島中学校

女子の部 準決勝 吉川南○19-16 大宮開成
美園○16-12 八幡
決勝 美園○25-7 吉川南

・最終順位

優勝：さいたま市立美園中学校
準優勝：吉川市立南中学校
3位：大宮開成中学校
：八潮市立八幡中学校

※以下は、強化対策事業（主な大会）

【関東選抜大会：栃木県】

男子の部 1回戦 埼玉県●18-20 東京都
1回戦さいたま○25-23 栃木県

準決勝さいたま●15-16 茨城県
3回戦さいたま○24-21 群馬県
敗者戦 埼玉県○19-18 神奈川県
女子の部 1回戦 埼玉県○20-17 茨城県
1回戦さいたま●14-17 神奈川県
準決勝 埼玉県○16-14 群馬都
決勝 埼玉県○19-9 神奈川県
敗者戦さいたま●11-21 山梨県

最終結果 男子さいたま：3位、女子埼玉県：優勝

【さいたま CITYCUP 全国中学生交流大会】

男子の部 予選R 埼玉県○33-19 長野県
埼玉県○26-20 滋賀県
予選R 開催地●22-26 大阪府
開催地●23-30 三重県
1位R 埼玉県○21-17 愛知県
埼玉県●22-25 大阪府
3位R 開催地○23-19 神奈川県
開催地○29-24 長野県
結果 2位：埼玉県、7位：開催地
女子の部 予選R 埼玉県○26-22 愛知県
埼玉県○26-12 神奈川県
予選R 開催地●11-27 大阪府
開催地●11-32 京都府
決勝T 埼玉県●27-28 三重県
3位決 埼玉県○36-17 愛知県
順位決 開催地●14-27 京都府
開催地△18-18 神奈川県
結果 3位：埼玉県、7位：開催地

【春の全国中学生ハンドボール選手権大会埼玉予選】

2月上旬に実施予定

【指導者講習会】

3月20日（土）八潮市立大原中学校体育館

6. おわりに

本年度は、大会運営、審判、指導と学ぶ気持ちが高い新たな指導者が増え、来年度は全国中学校大会埼玉県開催に向けて活気ある体制となりそうです。指導者講習会や小学生や高校生などとの連携をさらに充実させ、専門部の活動がより幅広くできるように努めます。来年度も引き続きご支援ご協力よろしくお祈りいたします。